

農山漁村振興交付金(地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 四ツ小屋地域元気づくり協議会

令和4年9月14日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
秋田県 秋田市	平成30年度	活動計画策定事業	①都市と農山漁村の人々が交流するための取組 ②農山漁村で暮らす人々が引き続き住み続けるための取組

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

計画に基づく取り組みが実施されず、成果が上がっているとも言えないことから、評価をCとした。事業実績の評価項目を「ファーマーズマーケット集客数」「グリーン・ツーリズム人口」「野菜販売額」「農業農村体験による売上額」においていることから、コロナ禍がマイナスの影響を及ぼしていることは明らかである。ただし、こうした事態における代替策を実施できなかったことから、体制不備が否めない。

2. 低調と評価された要因

<p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファーマーズマーケット「せせらぎ市」・都市農山漁村交流事業: 目標値10回のところ、実績値が6回(達成率60%) ・体験用等敷地整備事業: 目標値10回のところ、実績値が6回(達成率60%) ・広報、呼びかけ(チラシ等の配布): 目標値10回のところ、実績値が4回(達成率40%) <p>【評価指標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファーマーズマーケットの集客数: 目標値1,000人のところ、実績値が500人(達成率50.0%) ・ファーマーズマーケットの野菜販売額: 目標値1,500千円のところ、実績値が437千円(達成率23.1%) ・農村都市交流事業における交流人口: 目標値300人のところ、実績値が120人(達成率40.0%) ・農村都市交流事業の金額換算(交流体験): 目標値1,500千円のところ、実績値0千円(達成率0.0%) 	}	<p>いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大により、ファーマーズマーケットが開催できず、また、集客数が減少したことにより販売等が減少したものである。</p>
--	---	--

3. 目標達成に向けた方策

目標達成に向けた方策として、以下の取組を行った。

- ・1962年(昭和37年)に四ツ小屋村が秋田市に合併したが、秋田市内での知名度は低かった。平成30年度から令和2年度に農山漁村振興交付金(地域活性化対策)を受け、事業に取り組んだ結果、秋田市内における知名度を高めることができた。
- ・具体的には、R4年7月8日に四ツ小屋地区で収穫された野菜を利用したイタリア料理の会を催したところ、秋田市内から多くの人が訪れ、「秋田市内にこのように美味しい野菜が採れる地区があるとは知らなかった」「ぜひ四ツ小屋地区の野菜を購入してみたい」と四ツ小屋地区の野菜が高評価を受けると共に、四ツ小屋地区の良さが再認識された。
- ・そこで、四ツ小屋地区で収穫された米をインターネットを介して、販売を開始した。今回評価の高かった生鮮野菜についても取り扱いたいと考えている。
- ・一方、四ツ小屋地区に新しく農業法人が5つ設立された。そのいずれもが6次化、複合化していきたいと考えているとのこと。
- ・令和4年1月の「重点指導結果」において、令和4年度中のNPO法人化を目指したいと回答している。NPO法人化を目指す理由は、農家レストランを運営し、冬場の活動機会と収入を得るため。
- ・農家レストランを運営するにあたり、任意組織のままでは経営が安定しないことや金融機関からの融資を受けることができないため、R4年度内の法人化に向けて協議会の構成員で検討中である。

4. 改善状況

【目標達成状況】

- ・ファーマーズマーケット「せせらぎ市」・都市農山漁村交流事業: R2目標値10回のところ、R4実績値が8回(8月末現在)(達成率80%)
- その後も9月に1回、10月に1回、11月に1回に開催する予定。

【評価指標の達成状況】

- ・ファーマーズマーケットの野菜販売額: R2目標値1,500千円のところ、R4実績値が736.3千円(8月末現在)(達成率49.1%)
- ファーマーズマーケットの他に、インターネットを介した通信販売にも取り組んでいるが、実績値には含まれておらず、実績値は年度末までに50%以上の達成は確実である。

【その他】

- ・R4年度中のNPO法人化を予定しており、四ツ小屋地域元気づくり協議会については改善に向かっている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:株式会社宿かり屋ドットコム

令和4年9月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
岩手県 八幡平市	平成30年度	—	岩手山焼走り国際交流村焼走りキャビン村センターハウス及び1.2.3.4.5.25号棟改修工事を行い、農泊の加速化に資する。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

令和2年度においては、コロナ禍のため計画していた事業がほとんど頓挫した状態にある。事業の最終年度であり自己資金のみで事業を展開する年度ではあるが、令和元年度までは順調に実績を伸ばしてきたものの、コロナ禍の影響が実績減の要因であろうかと捉えた。ただし、こうした事態における代替案による対応が見えないことから、体制不備が否めない。

(指導・助言等)

- 施設経営の将来(アフターコロナ、ウィズコロナ)を見通し、現在取り組んでいるワーケーションに加えてマイクロツーリズム向け施設利用を更に進めるなど施設の利活用方法の見直しを図られたい。
- また、八幡平松尾地区農泊推進協議会及び株式会社八幡平DMOとの連携を強化し、以前実施したソフト事業の成果を活用できるよう、農泊の実施体制を見直しされたい。

2. 低調と評価された要因

- 目標値に対しての達成率が50%を下回り、低調であった。
- 事業実施主体の農泊に関わる活動及び他関係団体と連携しての農泊に関わる活動が不十分であった。

3. 目標達成に向けた方策

【事業実施計画の見直し】

- 岩手山焼走り国際交流村焼走りキャビン村センターハウス及びキャビン棟の1.2.3.4.5.25号棟改修工事を行ったが、売上高及び延べ宿泊者数の目標達成に結びつくよう、事業の見直しが必要。

【コロナ禍の対応】

- コロナ禍においても、宿泊者が密になる状況を回避し、農泊の推進が可能になるような取組が必要。

【施設利用の見直し、代替案】

- ワーケーション及びマイクロツーリズムの取組を行うため、施設利用の見直しが必要。

【実施体制の見直し】

- 農泊の実施体制を見直し、八幡平松尾地区農泊推進協議会及び株式会社八幡平DMOの2者はもとより、施設に関係すると考えられる者と共同で実施できる体制が必要。

4. 改善状況

【事業実施計画の見直し】

・令和3年度の取組によりキャンプ、オートキャンプの宿泊者には、センターハウスのカウンター設備機能の追加によりそば打ち体験の機会が提供され、キャビン棟改修工事対象施設の宿泊者にはサニタリーハウス周辺でのBBQを行う機会の提供など農泊事業で使えるようにした設備を加えた結果、農泊の加速化につながり、収入増が確保された。(目標達成率: 売上高52%(令和2年度:43%)、延べ宿泊者数93%(令和2年度:26%))

【コロナ禍の対応】

・今あるキャンプ場に加え、今までイベントなどで使用していた野球グラウンド、広場をキャンプ場にして周辺施設と提携し、ツアーなどを企画した。ツアーは難しくとも一定のキャンプ場宿泊客は、確保できた。

【施設利用の見直し、代替案】

・ワーケーションについては、国の天然記念物「焼走り溶岩流」に隣接したロケーションを活かし、リモートワークができる企業への営業の検討により実現を図っている。

・マイクロツーリズムについては、東北6県を対象に宿泊者対応岩手県民割を活用し取り組み、新たなキャンプサイトの創設も行い、延べ宿泊者数の急増加につながった。

【実施体制の見直し】

・八幡平松尾地区農泊推進協議会及び株式会社八幡平DMOと連携し、施設に関係すると考えられる者と共同でモニターツアーを実施した。